

すべての女性が輝く明日のために

JAUW会報



一般社団法人
大学女性協会

第262号
2017年11月



2017年度 JAUW 全国公開セミナー 2017年10月26日～27日 国立女性教育会館にて

特集 全国公開セミナー

会長・企画委員長あいさつ……………	2	本部委員会報告／視点……………	6～7
基調講演 プログラム……………	3	ヒューマン・ストーリー……………	8
クローズアップ 事業委員会……………	4～5	第4回 元会長 青木怜子	
催事のお知らせ		支部だより 熊本・愛知……………	9
楽天へのアクセスについて		2018・2019年度役員（理事・監事）候補者推薦依頼 ……	10
創立70周年記念募金報告		理事会・各委員会からのお知らせ	

2017年度 JAUW 全国公開セミナー

女性の自立とは ー真のリーダーシップを発揮するためにー

日時：2017年10月26日～27日

会場：国立女性教育会館（NWEC：ヌエック）

全国セミナー ～その成果を生かすために～ 会長 鷺見八重子

台風一過の秋晴れに恵まれ、武蔵嵐山ヌエックにおける2日間のセミナーは無事に終了しました。北は札幌、南は熊本から17支部70名あまりの会員が参集し、活発な討議と楽しい交歓の時となり、皆さまに心から御礼を申し上げます。ヌエックの内海房子館長はじめ事務局からも10数名の参加を得、当協会の活動についてご理解と共感、また高い評価をいただけたのは望外の幸せでした。



テーマに掲げた「女性の自立」は4年目を迎え、前回のサブテーマ「女性の自立をはばむものは何か」(2015年度つくば国際会議場)を経て、今回は「真のリーダーシップを発揮するために」が中心的課題でありました。本部の3つの委員会はもとより、3支部の報告、さらに分科会とパネルディスカッションから、女性のリーダーシップ育成のカギは何か、社会における女性活躍の実態とその課題が見えてきたように思います。

基調講演の中で、室伏きみ子お茶の水女子大学長は、女性が力を発揮するために備えるべき資質として、まず「確かな専門性と豊かな見識」、次いで「探求力と挑戦する姿勢」、そして「他者への配慮と多様な世界の人々と協働できる力」が大切であると述べられました。これらの資質・能力を育てるのは単に女子大学の使命にとどまらず、あらゆる高等教育に求められるヴィジョンでもありましょう。しかも、これらの資質は、社会のリーダーになるためだけでなく、私たち一人ひとりが良識ある市民として生きるために、あらゆる場面で必要とされる真のリーダーシップと言えるでしょう。

今回のセミナーの成果を、高等教育の推進を標榜する大学女性協会の今後の提言活動などに生かしていきたい。感謝をもってそう心に銘じました。

セミナー開催にあたって 企画委員長 梅田 和子

本年度のセミナーは2014年度より「女性の自立とは」のテーマで開催、同テーマ最終のサブテーマを「真のリーダーシップを発揮するために」と題し、開催いたしました。

セミナーの日は前日までの寒さがうそのように好天に恵まれ、久しぶりの秋晴れになりました。



1日目の基調講演は会員でもあるお茶の水女子大学長の室伏きみ子氏をお迎えし「真のリーダーシップを発揮できる女性たちの育成」のタイトルで話をしていただき、活発な質疑応答が行われました。

委員会報告は新規事業委員会、女性エンパワーメント委員会、国際ネットワーク委員会、支部報告は新潟、茨城、神戸支部より、ここ数年の事業報告が行われました。

2日目午前中は下記のテーマに分かれての分科会でした。

- ① どう打ち砕くガラスの天井 ー女性と仕事ー
- ② 教育が世界を変える ーリーダーシップを育てるー
- ③ 政治を日常に取り込もう ーアクションの社会参加ー

3つの分科会共に多くの会員の発言があり、内容の濃い議論が出来たと好評でした。

午後は鷺見八重子会長をコーディネータにパネリストとして映画評論家・ジャーナリストの松本侑壬子氏、活水女子大前学長の加納孝代会員、分科会リーダーの川崎由紀子、中庭陽子、岡崎優子各会員によるパネルディスカッションを行いました。

分科会報告に加え、加納、松本両氏による発題にフロアから多くの発言があり、鷺見会長の軽快な進行で活発な熱のこもった議論が交わされ、3時間があっという間に過ぎ、充実したパネルディスカッションになりました。

2日間にわたるみなさまのご協力に感謝いたします。

詳しい内容は来春発行予定の報告書でお読みください。

真のリーダーシップを発揮できる女性たちの育成 ～お茶の水女子大学の取組を通して～



本日は皆様と意見交換をさせていただき、本学にとっても良い方向性が見定められるとよいと思っております。

政府は“女性が活躍、輝く社会”などと言っておりますがそうは進んでいない状況です。女性がリーダーシップを発揮できなければ、真の意味で女性の力を十分に活用できる社会ではないと思います。

調査データは、女性役職者の割合が上級になるほど少ないことを示しています。女性がリーダーシップを発揮するためには、意思決定できる立場に女性が複数いることが重要です。企業側も意欲的な女性を求めているのですが、管理職昇進を希望するような女性は少ないのが現状です。

日本は女性研究者が少なく、特に理工系の女性研究者が不足しております。原因として女性が育つ環境の問題、

研究生活を阻むライフイベント（育児、介護等）、復職の困難さなどがあげられます。

これらの問題点への、お茶の水女子大学の取り組みを紹介します。本学では学長戦略機構の55%、教授会の35%、教員の50.9%が女性であり、意思決定できる立場にあります。

学生、研究者の支援策として、学内保育所の設置、保育料補助、本人及び配偶者のライフイベントに対する人的・金銭的な補助、研究を中断した研究者への復帰支援等を行い成果を上げております。

理工系研究者の増加策として、小中高教員の研修や女子高校生に対する実験・観察・実習指導を実施しています。

グローバルリーダーの育成策として、著名な女性リーダー（大使、学長、ノーベル賞受賞者等）を招き学生を勇気づけていただいたり、海外の大学と交流協定を結び留学生を積極的に海外に送り、受け入れております。この取り組みにより世界で活躍する人材育成が着実に進展しております。

プログラム

10月26日（木）

- 13：30～13：35 開会挨拶 会長 鷺見八重子
 13：35～14：35 委員会報告
 ①新規事業委員会 松本由美子委員長
 ②女性エンパワーメント委員会 城倉 純子委員長
 ③国際ネットワーク委員会 鈴木千鶴子委員長
 14：40～16：00 基調講演 室伏きみ子
 （会員・お茶の水女子大学長）
 16：00～17：00 支部報告
 ①新潟支部 長谷川道子会員（高橋令子支部長代理）
 ②茨城支部 加藤光子支部長
 ③神戸支部 伊藤 舞会員
 18：00～20：00 懇親会（宿泊棟 1F レストラン）



懇親会にて・左端は内海房子NWEC館長

10月27日（金）

- 9：30～11：30 分科会
 ①どう打ち砕くガラスの天井 ―女性と仕事―
 リーダー：川崎由紀子
 サブリーダー：窪田憲子
 ②教育が世界を変える ―リーダーシップを育てる―
 リーダー：中庭陽子
 サブリーダー：城倉純子
 ③政治を日常に取り込もう ―アクションの社会参加―
 リーダー：岡崎優子
 サブリーダー：山瀬恵子
 ～ 昼 食 ～
 13：00～15：30 パネルディスカッション
 「女性の自立とは ―真のリーダーシップを発揮するために―」
 コーディネーター：鷺見八重子会長
 パネリスト：松本侑壬子氏（映画評論家・ジャーナリスト）
 加納孝代（会員・活水女子大学前学長）
 分科会リーダー 3名
 15：30～15：50 まとめ、提言 会長 鷺見八重子
 15：50～16：00 閉会の辞 企画委員長 梅田和子

クローズアップ 事業委員会

理事 松村 和子

事業6の部の収益を上げる活動をする部門を4つまとめて事業委員会として発足しました。今回収益事業委員会は楽天のアプリエイトのサービスを使うことになりました。収益を上げる活動に会員全員が参加していただけることがありがたいです。親睦委員会は親睦が目的なのだから収益にこだわらず(といっても赤字にならないようにはしております)活動をしました。文化事業委員会も仕掛けから催行まで長期スパンで活動し、収益に貢献しています。新規事業委員会は現状打破を目標に大学女性協会の新しい活動を模索しております。現状としてはなかなか収益には結びつかないですが、9月30日の水戸でのシンポジウムはこれからの新規事業委員会の活動の道が少しでも開けたのではと喜んでおります。収益を上げなければ、大学女性協会の活動が今までのように出来なくなることを、各支部の皆様にもご理解いただきたく、ご協力をお願いいたします。

親睦事業委員会

中山 律子

当委員会は毎年、新年に開催される「新春のつどい」と、隔年に行われる支部訪問の「親睦旅行」を担当しています。

新春のつどいは当初、会員の親睦をはかる目的で大変華やいだ雰囲気の中で、会食と共に福引きや余興が行われてきました。しかし、JAUW奨学金事業を多くの方と共に祝うことが、より有意義だとして現在のように「新春のつどい」の中で授与式を行うことになりました。

国内奨学金贈呈式は、大学女性協会の大切な公益事業のひとつです。将来女性のリーダーとして活躍すべく、希望と意欲あふれるスピーチは私たちに感動を与えてくれます。大勢の方々にぜひ聴いていただきたいと思います。

親睦旅行は会員数が減少する中、本部の活動を支部の方々にもご理解いただき、加えて他支部会員との交流を深めていくために、2011年から隔年に行われています。

2011年度 冬の北陸を訪ねて「金沢・福井支部」

2013年度 異国情緒あふれる西端の地「長崎支部」

2015年度 安芸の国めぐり「広島支部」

2017年度 初夏の北海道への旅「札幌支部」「函館支部」
訪問した支部会員と参加者が宴を共にして語り、また観光地をめぐり楽しみました。開催支部の方、各支部からご参加された方々からは大変なご好評をいただいています。

今後もこの会を通して支部との交流を盛んにし、全国から多くの方がご参加されることを願っています。

文化事業委員会

佐々木澄子

文化事業委員会は、総勢8名ですが、委員が皆忙しく、年に5、6回の委員会で大筋を決め、あとはメールで相談しながらイベント当日を迎えています。

6月には、フルートとファゴットによる初夏の夕べのコンサートを開催しました。低気圧の接近で大荒れの中、多数の観客が来場、太田茂・嘉子夫妻の管楽器とピアノの演奏を楽しみました。この企画は8ヶ月前より始まり、まずホールの予約、チラシ・チケット・プログラムの作成、またこれは主催者側として肝に銘ずべきことですが、「会場が満席でないと集中できない」との言葉にチケット販売に全力をあげました。出演者が100枚もチケットを引き受けてくれたことにより32万円以上の純益をあげ、これは全てJAUWの活動資金となります。

12月7日には古典落語と色物の会を催します。落語家の柳亭こみち師匠は、早稲田大学卒業後、修行に入り二つ目でご結婚、二人のお子様を育てながら真打になったばかりの、JAUWが応援したくなるような輝く女性です。しかし、今回はチケット引き受けがないので、会員の皆様にご協力をお願いせざるを得ません。このように、毎回、同じパターンはなく、常に純益をあげるために慣れない電卓を叩く緊張の日々です。

来年度の催しも既に企画に入り、ホールの予約、出演者とのコンタクトを続けるなど前広の活動をしています。苦勞も多けれども終わった後の達成感もあります。興味のある会員の方の参加をお待ちしております。



● JAUW 新春のつどい

日時：2018年1月13日(土) 11:00~14:30

場所：新宿・京王プラザホテル南館5F
コンコルドボールルームC

会費：10,000円

申込締切：2017年12月18日(月)

*キャンセルは3日前(1月10日)まで。

プログラム

1部 2017年度 国内奨学金贈呈式

2部 懇親会 会食、懇談

※南極越冬隊員(2015年度国内奨学生)との現地交信(予定)

● 古典落語と色物の会

日時：12月7日(木)開演13:30(開場13:00)

場所：けやきホール

出演：落語協会・柳亭こみち

大神楽曲芸協会・翁家和助

チケット代：2,500円

*2018年度の予定

5月29日(火)「伊能美智子(東京支部会員)作曲による初夏の午後のコンサート」

11月5日(月)「スウェーデン・日本の国交150周年記念 スウェーデン人音楽家と日本人ピアニストによるコンサート」

● 横濱山手でランチとクリスマス

日時：12月21日(木) 11:00

● 国立劇場歌舞伎公演「世界華小栗判官」

日時：2018年1月14日(日) 12:00開演

出演：尾上菊五郎、尾上菊之助、他

チケット代：一等B席 6,400円

申込締切り：11月27日(月)

● 国立能楽堂 能・狂言公演 解説 未定

日時：2018年3月10日(土) 開演13:00

出演：狂言・墨塗り・井上松次郎(和泉流)

能・船橋 東川光夫(宝生流)

チケット代：正面席4,900円

申込締切り：1月25日(木)

▶ 古典落語・コンサート・観劇会・催し物についてのお申込み・お問合せは本部事務所へ

収益事業委員会

松崎 和子

私たちの活動目的は、文字通り収益を上げることにあります。そして、参加して良かったと思っていただくことです。主な活動内容は総会・新春のつどい・セミナーなどでのバザー、歌舞伎・文楽・狂言・雅楽などの観劇会、街歩き・大使館訪問・美術鑑賞など多岐にわたる催し物です。

バザー商品の買い付けには苦労しています。美味しく健康に良い食品を探しています。衣料品の買い付けでは、ときには「あの方にはこれがお似合いでは？」と皆様を思い浮かべたりもします。また、寄贈品は大変ありがたいです。商品は本部事務所でもお買い求めいただけます。

観劇会はいずれも人気の演目で、ときには舞台裏見学付きなどの興味深い演目もあります。所属の3名の神戸支部委員が、関西地区で観劇会を開催し、一部を関西地区からの寄付金として入金しています。

催し物は、皆さまに喜んでいただけるものを企画しています。不可欠なのは美味しいランチです。企画の下見の際、グルメな委員の試食は必須です。

その他、「岩波ホール」の映画を事務所に申込みいただく手数料が入ります。世界の名作が上映されています。

最後に、全国の皆様にご協力をお願いしたいことがあります。

①年に2回お送りしている「丸大食品(株)」のチラシで商品をご注文いただくと、手数料を得られます。

②楽天の広告です。JAUWのHPのをクリックして、楽天でお買い物などをご利用になると、商品に応じて広告料を得られます。

いずれも会員以外の方もご参加・ご協力をいただけるものです。

「観劇会」「催し物」についてはHPと会報でお知らせしております。

新規事業委員会

松本由美子

引き続き人材バンク登録申込みを受け付けており、人材バンク登録活用プログラムとして「Jカフェ～源氏香を愉しむ会」を企画。2回目は来年3月、登録者および会員によるシンポジウム「災害を語る～家庭における災害への備え」を、災害被災地各支部の協力をいただき、災害における身近な問題に焦点をあてたプログラムを検討中です。

また7月には第1回パソコン講座で「オリジナル名刺」を作りました。この講座の目的はパソコンのスキルアップとシニア世代のネット活用のノウハウの蓄積。11月15日には「オリジナルカレンダーづくり」を企画しました。

JAUW新春のつどいのお申込み・会費の振込みは以下へお願いします。

申込先：(一社) 大学女性協会本部事務所

Tel：03-3358-2882/Fax：03-3358-2889

E-mail：jauw@jauw.org

振込先 三菱東京UFJ銀行 四谷支店 (051)

普通預金：口座番号 1077777

別口一般社団法人大学女性協会 理事 鷺見八重子

楽天へのアクセスについて

HP担当 梅田 和子

大学女性協会のホームページ (<http://jauw.org/>)

をクリックし、楽天市場にアクセスすると、みなさまがお買物をされた金額の一部がJAUWにバックされます。

楽天市場だけではなく、楽天トラベルでの旅行の申込や、楽天GORAでのゴルフ場予約等もバックの対象になります。

年末は楽天市場ではお歳暮特集、クリスマス特集、おせち年越し特集などおすすめ商品が数多くあります。

ネットでお買物をされたことが無い方も是非一度、見ていただければと思います。



ここをクリック

募金委員会報告 (その3) お礼とお願い 牧島悠美子

一般社団法人大学女性協会創立70周年記念募金事業にご協力いただきまして厚く御礼申し上げます。皆様のおかげで下記のように着々と募金金額も増えておりますが、目標は2018年3月までに1000万円といたしましたので、今後とも一層のご協力をお願いいたします。

前回以降の2017年6月1日から10月31日までの寄付金合計は62万2500円、寄付人数は延べで17名でした。募金が始まりました昨2016年11月12日からの寄付総額は423万7500円となり、寄付人数は延べ278名となりました。今後も2度目、3度目のご協力をお願いいたします。

開始1年になる今回はまた新たに寄付をお願いしたく、振替票を同封いたしますのでご協力のほどお願いいたします。寄付の振込先は下記の2つの口座を用意しております。

*三菱東京UFJ銀行 四谷三丁目支店 (店番340) 普通預金
口座番号3918298 一般社団法人 大学女性協会
理事 鷺見八重子

*ゆうちょ銀行 口座記号番号 00130-0-587701
口座名称 (漢字) 一般社団法人 大学女性協会
口座名称 (カナ) シャ) ダイガクジョセイキョウカイ
他行からの振り込みの場合の受取口座名
〇一九 (ゼロイチキュー) 店 (019) 当座 0587701

(一社) 大学女性協会創立 70周年記念募金寄付者ご芳名
敬称略・支部別 五十音順 2017.6.1~10.31

(札幌支部) 有志 (茨城支部) 小林れい子、城倉純子、牧島悠美子 (栃木支部) 増淵民子 (東京支部) 阿部幸子、柏木京子、見林英子、中山正子、広瀬晴子、廣田貞子 (神奈川支部) 市川知恵子、山瀬恵子 (長崎支部) 加納孝代、平野啓子 (匿名希望) 1名

GWJの最新ニュースを日本語で分かりやすく

国際ネットワーク委員長 **鈴木千鶴子**

国際ネットワーク委員会が年間を通して定期的に取り組んでいる代表的な事業に、GWJ (IFUW) ニュース翻訳のホームページ上への掲載・更新がある。地味ながら時に感動をいち早く享受できる仕事である。以下、JAUW ホームページに掲載中の最近の記事の中からいくつかご紹介したい。



「ご存知でしたか?」と題して8月9日号では、VGIFで知られる Virginia Gildersleeve と親交が篤く英国で二人目の女性大学教授となり、女性の学位取得の権利のために戦った Caroline Frances Eleanor Spurgeon が、IFUW (現GWJ) の初代会長 (1920~1924) であったことを、貴重な写真と共に伝えている。

次ぐ8月23日号では、GWJの数年来の財政難解決策として期待される運営経費削減に繋がる事務所の移転が「GWJの新本部所在

地によくこそ」で報じられた。同じジュネーブ市内で国際NGOだけが入所可能な州所有の施設 (写真) への移転により、GWJ が多くの提唱活動を行う拠点、国連ジュネーブ事務局にも近くなり、他のNGOとの協力もしやすくなった、との朗報である。



また9月6日号からは、今年の国際識字デーに際してGWJではデジタルジェンダーギャップに着目し各NFAに解消に向けて行動するよう強く呼びかけている記事を取り上げ、最新号9月20日号は、ジュネーブでの第36回人権理事会に出席したGWJ国連代表の報告を掲載し、「普遍的・定期的審査 (UPR) とSDGs2030アジェンダ」パネルディスカッションで、UPRメカニズムの中には、市民が、SDGsの目標がいかに進んでいるかを監視し、通報することが含まれており、それがすなわち、市民が担う価値ある役割であることが確認された、とのことである。

実際の記事を JAUW ホームページ「国際協力とGWJ」⇒「GWJ (IFUW) ニュース」で、是非ご覧ください。

第62回 NGO CSW Forum 参加支援者紹介

国際ネットワーク委員会 **西村寿美子**

★植田奈穂美さん：上智大学大学院グローバル・スタディーズ 研究科国際関係論専攻博士前期課程2年

国際社会における文化の違いがマナーの違いとして表れる場面で、日本人の価値観で判断する傾向があることに疑問を感じています。国際的なコミュニケーションの視野で互いに理解し共有する必要性を感じています。

★櫻井彩乃さん：聖心女子大学文学部国際交流学科法学専攻4年 2度目の参加です。最初の体験から、より多くの人と対話しもっと多くの知識を得たいとの思いで、その後様々な分野の勉強をして、2回目の参加に挑みます。

このお二人は、第62回 NGO CSW Forum 参加支援募集に応募し、選考の結果 理事会で参加及び支援が承認された方です。二人に共通している姿勢は、国際的感覚を持って積極的にコミュニケーションを開拓し広く大きな知識を得たい意欲を持っていることです。そこで得る様々な知識や体験が今まで培ってきた実績に加わってグローバル社会で益々大きく成長することを期待します。

特に今年度は第60回・62回と2度目の参加となる櫻井さんがおられ、積極的向上心のある学生さん二人を支援できることは、今後の日本を背負う人材を育成する委員会としては大変意義深いことです。

12月17日(日)の研修会でご紹介します。ご期待ください!

CSW とは

女性エンパワーメント委員長 **城倉 純子**

1985年に男女雇用機会均等法の成立や民法の改正、高校家庭科の男女共修など、日本では女性差別の是正に関する大きな動きがありました。これらの動きは、1979年の国連総会で採択され1981年発効の、世界の女性の憲法といわれる「女子差別撤廃条約」を批准するための国内法の整備をするためであり、日本は1985年に批准しました。(個人通報制度を規定した選択議定書は、未だ批准していません)

女性問題解決のために女性政策を優先して行う国がほとんどなかった現状にあって、CSW (国連女性の地位委員会：Commission on the Status of Women) は、1946年の設置以来、重要な任務を果たしてきました。CSW は、政治・経済・市民・社会・教育の分野における女性の権利を促進するため国連経済社会理事会 (ECOSOC) への提言と報告をまとめるために設置され、女性に関する重要な条約の草案づくりや世界女性会議の運営など、大きな役割を担ってきました。CSW の年次会合が、毎年3月にニューヨークの国連で開催されています。ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを推進するための各国の女性政策を方向付ける機会です。優先テーマを中心に検討された成果

を合意結論として採択、それらを受けた検討結果を ECOSOC では国連総会に提出。総会で採択された内容は各国政府に通達され、いち地域に生きる私たちに繋がっていくのです。

大学女性協会では、長らく“NGO/CSW フォーラム”への参加を通し、世界の女性問題への関心を高め、国内女性の地位の向上につなげてきました。CSW 開期中に世界中からロビイングを目的に参集する女性たちが、ワークショップや記念事業を行なってフォーラムを形成しています。運営はNYのNGOボランティアが中心となり、政府と共催で行うワークショップをサイド・イベント、NGO主催のワークショップをパラレル・イベントに分け、2週間の会議開期中に並行して様々な動きを企画実施しています。私は2013年第57回 NGO/CSW フォーラムから、JAUW 若手支援の同行者も務めながら連続して4回の参加を経験しました。目覚ましいのは、アフリカとイスラム諸国のNGO女性達の覚醒で、被害の訴えに終始していた時点から2、3年の内にジェンダーの視点に立った論戦を張るに至っています。北欧地域のワークショップでは、男性の参加は3割ぐらいに。しかし、肝心の政府間会議であるCSW 本会議では、ロシアやアフリカの保守勢力による揺り戻しが色濃くなり、毎年その傾向は強くなりつつあり残念ですが、NGOの力への信頼の高まりが希望です。

会員は人材の宝庫 ～メンターカフェも夢ではない～

新規事業委員長 松本由美子

委員会では人生の応援者・支援者として私たち会員の経歴や経験が少しでも役に立つのではないかとこのコンセプトで、人材バンク制度を設けました。現在登録者は18名、うちいずれも延べで教育関係が15名、就労関係が10名、地域・社会活動が14名、家庭生活・消費生活が16名、趣味に12名が登録されています。

登録者の活用に向けてメンター（上から目線ではない助言・支援・応援）のあり方について勉強会もしましたが、まず手始めに登録者活用プログラムとして「Jカフェ」の実施を決めました。第1回は松村理事による「源氏香を聞く会」。第2回目の「Jカフェ」は、阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震、常総市の大水害など被災地支部との協働で、「災害を知る～災害への家庭の備え」を実施できるよう検討中です。

9月、茨城支部と協働で「先輩女子のキャリアトーク」を開催。外部講師の社労士以外、私大准教授、税理士、消費生活相談員の3名は会員でした。それぞれ自身のキャリアを披露したのですが、学生を始め30代・40代の女性が多数参加、これからの生き方・働き方に参考になったとの感想が多く寄せられました。このパネルディスカッションが後輩女子



へのメンターとなったと考えられます。私たち会員は誰でもメンターになれる経歴と経験を備えています。気軽に登録し、後輩女子を育てていく活動にご参加いただけたら幸いです。

「めげないわたし」養成講座を振り返って

女性エンパワーメント委員長 城倉 純子

2015年度より3年間にわたって実施した「めげないわたし」養成講座も、本年9月に無事終了の運びとなりました。ご協力頂きました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

通算15講座、合宿2回、講師陣26名、延べ330名の講座生の方々にご参加頂き、アサーティブ・トレーニングなど参加型学習や活発な意見交換、メンターの空間の創出など、「気付き」に溢れた充実した学習の場となりました。

当初は、30～50代の生き難さ真ただ中の女性を対象に、身近な人々と繋がって問題を解決しようと行動する力や乗り越える力をとの趣旨でしたが、実際には20から80代までの世代を超えたセッション、出会いと交流の貴重な場となりました。それぞれの心に、「変わる」「つながる」「進む」のキーワードが刻まれました。子育てが一段落したら大学院進学をと決意された方、既に新たに社会人大学院に進まれた方、大学卒業後の進路に悩み妥協せずに歩む方など、タフに歩み続ける講師陣の姿勢に共感し、エンパワーの成果がみられました。特に若い方々の3年間の成長には目を見張るものがあり、それが先輩諸姉のエネルギーにもなりました。講座を終えて、若い方々にどう繋げていくか、「私たちが変わる」ことこそが求められている、と痛感しました。



視点 大学授業料無償化を考える—中村久瑠美前会長に聞く

前回は、生活保護世帯の子どもが大学進学を希望する場合、子どもだけ別世帯となり自立が求められるという、法律の原則を取り上げましたが、近頃にはわかに「大学授業料無償化」が話題となっています。これが単なる選挙対策でないなら、その目的や意義を皆さまはどう思われますか。

Q1. 学歴社会の日本では大卒・院卒と高卒の生涯賃金の差が数千万円と言われ、無理してでも進学するケースにつながっています。学費の無償化は社会の各層の子弟に大学進学の道を開き、平等で包摂的な社会をもたらしますか。

A1. そうかも知れませんが、出身家庭の貧富に関わりなく学費を一律無償とする施策は公平とはいえ、必要な人には学費だけでなく生活費も支援して勉強に専念できるようにするなどきめ細かさが必要です。国立大学には「授業料免除」を申請し、認められれば学費が全額または半額になる制度があり現実的な貧困家庭対策となっています。貸与型でない給付型奨学金を充実させることも重要でしょう。

Q2. 高等教育を受ける人を増やすと、国の経済力も高め、社会全体の底上げになる、という議論もありますが。

A2. 高等教育に国家が力を注ぐことはもちろん重要ですが、入学さえしたら、ほぼ間違いなく卒業できるのが日本の大学の実情です。無償化により大卒者が増えたとして、中卒・高卒と差別化できる人材が生まれ、産業界も相応に処遇できるか疑問です。

Q3. 企業が大卒かそうでないかで採用時から学生をふるいにかける、いわゆる「学歴社会」でよいと思いませんか。

A3. 企業も「学歴」の中身を問う必要があるし、社会全体の学歴偏重も見直すべきです。しかし何よりも個人が勉学への自覚と意欲、将来への展望をもつことが大切です。まったくの無償化制はとらず、例えば健康保険料のように何割かは自己負担としたら自立の気持ちも強まらしましょう。無償化によって、定員割れを起こしている一部の大学の救済策になっても困りますね。

(文責：広報委員会)

穏やかに晴れた11月の初旬、青木元会長のお話を伺いに湘南の素敵なお自宅を訪問しました。

● JAUW に入会なさったきっかけをお聞かせください。

1970年に神奈川県大磯で日米合同セミナーが開かれるにあたり、セミナー委員長の藤田たき先生が聖心からお手伝いを要請され、母校の学長のお声がかりで緒方貞子さんが司会、中川徹子さん（シスター）がコメンテーター、私が研究発表を一つの部会で受け持つこととなりました。これがきっかけです。その後シスター中川は国内奨学委員長に、私は国際委員長になりました。

● 入会なさった当時、会に対する意識はいかがでしたか。

最初は、そんなに意識は高くありませんでした。後にIFUW*が何故設立されたかを知ってから、その意義を深く理解するようになりました。1919年設立当時、女性はcollegeで学んでも、university卒業者は少なかったのです。university womenという名称は大卒女性が入会する会というより、女性もuniversityに入り学位が取れることを目指す、というシンボリックな意味だったのです。

*2015年に Graduate Women International (GWI) に名称変更

● 先生は2期会長をお務めです。会長時代に最も注力されたこと、また印象深かった出来事などを教えてください。

1回目はやはり横浜大会「第25回 IFUW 国際会議」ですね。海外からだけでも800人余の会員が参加しました。皇后陛下をお招きし、素晴らしいスピーチをいただいた上、祝辞は衆議院議長土井たか子さんに、基調講演は緒方貞子さんをお願いできました。平和についての公開パネル討論会も行われ、鶴見和子さんを講師に大変活発な会となりました。同年は1月に阪神淡路大震災が起こり、横浜大会を前に、急遽、全国総会を神戸から横浜に移すなど、神奈川支部にもお力を借りました。

2回目の任期中には、11年3月に東北の東日本大震災がありました。福島原発事故も起きました。すぐに理事会を開き、当面の事態を救うため仙台支部会員が代表を務めていると知った宮城共同募金会に会から捻出した現金を送付し、長期的には保護者を亡くした高校生に卒業までの3年間、さらに高等教育を目指すものには延長して計最長5年間、毎月給付の育英支援をすることにしました。募金のチャリティーコンサートも行いました。返済義務のないこの支援は大変喜ばれ、心を伝え、伝わるという共に感動する繋がりを実感しました。最後の奨学生が卒業する2018年にこの奨学金も終了します。高田武子さんをはじめ、特設委員会の方々にご尽力いただいたおかげです。

● ご専門はアメリカ史ですね。

大学は英文科卒なんです。日本語と英語のロジックの違いが面白いと思いました。アメリカでは西洋史を学びたいと思い、イギリス外交史で大学院を卒業し、たまたま選んだ副専攻がアメリカ史でしたが、それが本職となりました。最初の職は非常勤として聖心や上智で教えていましたが、上智では国際学部でも教え、軍属など駐留アメリカ人にアメリカ史の講義を英語でしたため、その準備が大変でした。私の英語はこの授業準備があってこそ身についたものだと思います。私が25歳の時でした。そのほか、NHKの国際放送で世界向けの英語番組に8年間関わりました。世界の色々な人に日本のことを伝えるというのは、歴史、文化、民謡に至るまで勉強しなくてはならず、そうしたある種種回りの人生が私の体験を豊富にしてくれたかと思います。



● 国連の会議にも出席されていますね。

日本は1956年に国連に加盟しました。故市川房枝さんの呼びかけで、大学女性協会など5つの女性団体が政府代表団に民間人女性を入れるよう働きかけた結果、1957年の日本にとっては最初の国連総会から現在に至るまで、毎年NGOの推薦を受けた女性が代表団に加わっています。民間人女性が政府代表団の一員として国連総会に出席するのは日本のみです。そのような代表として私も1992、93年に参加しました。95年の北京会議を前にした93年、「女性に対する暴力の撤廃に関する宣言」が採択された時の会場のどよめき、拍手、興奮を今もはっきり覚えています。私はステートメントの中で家庭内暴力の子供に与える深刻な影響について発表しました。これは日本代表からの発言として国連ニューズ・リリース紙のトップを飾りました。それは、これに先立つ「差別撤廃条約」批准以降、女性の地位向上の流れが急速に高まっていた時代でした。

● JAUW また IFUW の意義は何だとお考えになりますか。

大学で学び身につけたことを社会に還元する、教育は卒業後に何ができるかが大切です。この会が教育の社会的還元を唱えていることが私を惹きつけている要因でしょうか。オランダで、IFUWの会長として成功している理由は何かと問われた時、成功しているかどうかはわからないが、私はこの会の活動にプライドを持ち、会が誇れることを行っているだけと答えた時、大きな拍手を受けたことを思い出します。きっと同感してくれたのでしょう。

—— 略 歴 ——

1935年生まれ
聖心女子大学名誉教授
国連 NGO 国内女性委員会委員長

元国際大学女性連盟会長（2001-04）；元（一社）大学女性協会会長（1992-95）、（2010-11）；第47回・第48回国連総会日本政府代表代理（1992,1993）；ユネスコ・アジア地域セ

ミナー日本政府代表（1991）；埼玉県「世界女性みらい会議」企画委員（1995-97）；独立行政法人国立女性教育会館「平成17年度男女共同参画のための女性学・ジェンダー研究・交流フォーラム」企画委員長；外務省文化交流事業第1回「日本・ヨルダン女性交流」代表（1996）；同第16回「日本・中東女性交流」代表団団長；元アメリカ学会常務理事並びに監事

著書
『私の中のアメリカ@Nippon/US.com』（論創社、2014）；『西部—アメリカの素顔』（鷹書房、1975）；『アメリカの地域—USA Guide 2』（共著）（弘文堂、1992）；訳書 RD ラム他『怒れる西部』（共訳）（玉川大学出版部、2000）その他
2002年10月 社会教育功労者賞受賞（文部科学省）
2005年09月 内閣総理大臣表彰（男女共同参画社会造り）

支部だより

熊本支部が世界に誇る出井ヤスコさん

(聞き手) 熊本支部長 岡本美和



(まずは、入会のきっかけからうかがいました)

昭和30年大学卒業後すぐ、先に熊本で高校の教師をされていた飛松先生、日吉先生、辛島先生の強力なお誘い(当時は先輩のいうことは絶対)で入会した。当時女性の教師はとて少なく相互に守り合うような関係だった。

(入会して一番良かったことは何ですか)

IFUW 総会に参加してお友達がたくさんできたこと。IFUW 総会には熊本支部が一番多く行った。昭和34年ヘルシンキ大会には房野桂先生、青木怜子先生と一緒に参加。確か、4回は行ったけれど・・・スタンフォード、平成7年横浜大会、グラーツ、アメリカのどこか。(一緒に年表で調べようとしましたが、IFUW だけのまとまった資料が手元になく、残念ながらあいまいなまま、話を進めます。)アメリカで知り合って、ニュージーランドまで行って遊んだこともある。言われるままにファームステイに行き、聞き取りにくい英語にも慣れ、行っておいでといわれて北端に行き、日本は見えたかと聞かれた。そういう冗談を楽しんだ。いろいろな国に泊まりに行ける友達がいる。

(ご家族の理解がありましたね)

女の子が大学に行ってどうするのか、という時代。世間の偏見を乗り越えて自己実現した仲間意識、尊敬すべき先輩がいた、JAUW はそんな存在。「仕事をやめろなどと言ったら離婚する」と夫に宣言した。孫はアメリカに行く決めていて「わたし、おばあちゃんに似たんだもん」と言っている。

(若い方にメッセージを)

会に出れば出ただけのことが得られる。聴いているだけでもメリットがある。外国の人と仲良くなるためには、相手側の受け入れる心も必要で、その点IFUWの会員は信頼のできる人ばかり。日本人が信用されていることもわかる。英語の上手い下手は気にしなくて良い。

(出井さんの国際性、積極性がよく分かりました。何より、お人柄が世界にお友達がいる理由だと思いました。)

愛知支部創設のときから活躍しておられる

私たちの大先輩林恭子さま～！ 愛知支部長 伴 紀子

手元に『JAUW愛知支部50年の歴史』という冊子があります。冊子の内容は支部50年の歴史に加えて会員が支部とどのように関わったか、そして、どんな思い出があるのかを前半におき、後半には具体的にどんな活動に取り組んだかが配置されています。50年間の多くのデータを集めてまとめあげることのできる人は才能豊かな持ち主にちがいないと思い、編集者の名前を調べますと、林恭子となっていました。愛知支部では林恭子というお名前を知らない人はいません。



そこで、林恭子さんを更に多くの会員の方々に知って頂きたいと思い入会のきっかけや思い出などを直接伺ったところ、その入会のきっかけが真にユニークでした。自ら入会したのではありません。ご自分の知らない間に入会させられていたというのです。ご主人の転勤で九州に住んでいたとき、お姑さんが入会の手続きを取ってしまわれたのだそうです。林さんのお義母さまは大学婦人協会の会員でいらっしゃって、どうも会員数を増やすための行動であったようです。名古屋に戻ってからのお嫁さんの林恭子さんは、会の集まりには小さい長男の手をひいて出席していたと、懐かしそうに話されました。もちろん今はお子さんの手をひいてではありませんが、毎月の例会には必ず参加され、私たちに的確なアドバイスをくださいます。

このような入会の出来事から察して、林恭子さんは典型的な主婦のようなイメージがありますが、むしろ学際的な女性なのです。名古屋大学では大学院教育発達科学研究科で研究されました。特に大学女性協会と深く関わっているルル・ホームズに関する研究は高く評価され、「大学教育学会誌」や「教育論叢」に掲載されています。

愛知支部にとりまして林恭子さんの在籍は大きな力添えとなっています。感謝を込めて益々のご健勝を祈ります。

* みなさまの支部で紹介をなさりたい先輩・同輩、あるいは歴史や活動などを、是非、広報委員会までお知らせください

正会員のみなさまへ役員候補者推薦のお願い

2018年5月の第7回定時会員総会の終結をもって、JAUWの司令塔である理事会の現理事および監事の任期が満了になります。したがって、役員選考委員会は定款第5章第22条および第25条により、次期2018・2019年度の理事および監事候補者の選考をいたさなければなりません。

役員選考委員会は役員選考規程に従って、正会員の皆様に役員候補者の推薦をお願いし、その選定結果を会長および理事会に報告いたします。

つきましては、全正会員の方から次期役員候補者のご推薦をいただきたく、お願い申し上げます。

ご推薦に際しては、本会報に同封の2018・2019年度(一社)大学女性協会理事・監事候補者推薦用紙にご記入の上、同封の封筒で2017年12月15日までにお送りください(消印有効)。

なお、記載にあたり、推薦用紙下段の注意書きをよくお読みください。推薦できない方があります。

会員の皆様のご協力、とりわけ役員候補者を推薦いただくことが本協会の活動の基盤となります。お忙しいところ恐縮でございますが、よろしく願い申し上げます。

役員選考委員長 岩村道子

理事会から

- ▶ 昨年のGWI ケープタウン総会で決議された、3年後には年額40スイスフランとなる会費値上げの件は、紆余曲折の末、GWI 理事会からそれを無効として7フランの値上げにとどめ、年額25スイスフランとし、今期3年間は据え置くとの動議が今秋提出されました。JAUW 理事会ではGWI 事務局にあらためて運営方針などを問い合わせ、熟慮の結果、10月末に動議の案に賛成票を投じました。
- ▶ 11月13日文科省生涯学習政策局男女共同参画学習課より文科省の組織改編について説明に来所されました。JAUW では文部科学大臣など4名に要望書を提出いたしました。

丸大食品



心に残る贈り物



「丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます。」
お歳暮・お中元の時期のほか、記念品・新築祝・開店祝
御礼・内祝・快気祝・各種景品等ご利用下さい。

丸大食品株式会社 東日本特販営業課 担当:山崎
〒135-0051 東京都江東区枝川2-23-2
TEL03(3647)3270 FAX03(3647)3274

第16回 自然科学講演会のお知らせ

「お茶の科学」

講師：加藤美砂子会員（科学研究奨励委員会委員）
お茶の水女子大学基幹研究院教授

日時：12月9日（土）15：00～17：00

場所：お茶の水大学理学部3号館7階大講義室

申込み：12月6日（水）までに JAUW 事務所へ

日本人が大好きな緑茶は、*Camellia sinensis* というツバキ科ツバキ属植物から作られます。緑茶だけでなく、紅茶も中国茶も、この *Camellia sinensis* の葉から作られています。お茶の中には、カフェイン、カテキンのような二次代謝産物、テアニンという非タンパク性のアミノ酸が豊富に含まれ、独特の香りや味わいを与えています。このようなお茶の葉に含まれるカフェイン生合成に関する最新の知見を交えながら、お茶に含まれるさまざまな成分について紹介します。この講演では、サイエンスの眼によって見えてくるお茶の奥深い世界に皆様をご案内いたします。

科学研究奨励委員会（東京支部・お茶の水女子大学共催）

2017年度国際奨学生の日と研究報告会

香港からの奨学生スン・リンさんが9月21日に来日し早稲田大学で「結婚の幸福論」をテーマに研究を始めました。また、フィンランドからの奨学生ライサ・ポッサマーさんは1月4日に来日して「中世日本文学」について研究を開始します。二人とも「新春の集い」に出席の予定です。

研究報告会を以下のように開催いたします。二人の流ちょうな日本語による報告と、山下いづみ理事の「日本の婚活」についてのお話を計画しております。皆様のご出席をお願いいたします。

日時：1月27日（土）13：00～16：30

場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

会費：1,000円（会費は当日申受けます）

申込み：1月20日（土）までに JAUW 事務所へ

国際奨学委員会

事業委員会より

新春のつどいなどの催事のお知らせは、4～5ページをご覧ください。

新入会員 理事会承認 2017年7月～10月

東京支部	植松ちどり	岡山支部	落合 佳奈
神戸支部	太田 茜	岡山支部	杉山 勝子

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101

電話 03-3358-2882

FAX 03-3358-2889

http://www.jauw.org

E-mail: jauw@jauw.org

発行人 鷺見 八重子

編集責任者 穂田 信子

発行日 2017年11月27日